

主日礼拝

2026 年 07 月 26 日
午前 10 時 30 分前奏「我、汝に呼ばれる、主イエス・キリストよ」
(J.S.バッハ)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「主よ、わたしの言葉に耳を傾け
つばゆきを聞き分けてください。
わたしの王、わたしの神よ
助けを求めて叫ぶ声を聞いてください。
あなたに向かって祈ります。
主よ、朝ごとに、わたしの声を聞いてください。
朝ごとに、わたしは御前に訴え出て
あなたを仰ぎ望みます。」 (詩編 5:2~4)

頌栄 27 「父・子・聖霊」



交読詩編 103:1~5

司式者：わたしの魂よ、主をたたえよ。
会 衆：わたしの内にあるものはこそって
聖なる御名をたたえよ。
司式者：わたしの魂よ、主をたたえよ。
会 衆：主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。
司式者：主はお前の罪をことごとく赦し
会 衆：病をすべて癒し
司式者：命を墓から贖い出してくださる。
会 衆：慈しみと憐れみの冠を授け
司式者：長らえる限り良いものに満ち足らせ
会 衆：驚のような若さを新たにしてくださる。

賛美 13 「みつかいととともに」

All hail the power of Jesus' Name!
詞：Edward Pennington, 1726-1792CORONATION
曲：Oliver Holden, 1726-1844

1 みつかいととともに イエスのみ名の
力をたたえて 主をあがめよ。
かんむりをささげて 主とあがめよ。
2 いのちをささげし あかしびとよ、
ダビデのみ子なる 主をあがめよ。
かんむりをささげて 主とあがめよ。
3 まことの神にて まことのひと、
あがないぬしなる 主をあがめよ。
かんむりをささげて 主とあがめよ。
4 世のつみびとらよ、イエスの愛と
憐みをおもいて 主をあがめよ。
かんむりをささげて 主とあがめよ。
5 世界の人々 み前に伏し、
栄光たたえて 主をあがめよ。
かんむりをささげて 主とあがめよ。
6 世界を治むる イエスを仰ぎ、
たたえのうたもて 主をあがめよ。
かんむりをささげて 主とあがめよ。

祈祷

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

賛美 32 「キリエ・エレイソン」



聖書 コリントの信徒への手紙Ⅰ 12: 12~26

新約(新共同訳)P316

12 体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。13 つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。14 体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。15 足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。16 耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。17 もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでにおいをかぎますか。18 そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。19 すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。20 だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。21 目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。22 それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。23 わたしたちは、体の中でほかよりも恰好が悪いと思われる部分を覆って、もっと恰好よくしようとし、見苦しい部分をもっと見栄えよくしようとし、見栄えのよい部分には、そうする必要はありません。神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。25 それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。26 一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

賛美 390 「主は教会の基となり」

The Church's one foundation
詞: Samuel J. Stone, 1839—1900

AURELIA
曲: Samuel S. Wesley, 1810—1876



- 主は教会の基となり、
みことばをもてこれをきよめ、
われらを死よりときはなちて、
仕うる民となしたまへり。
- 世界の民は集められて、
ひとつのからだ、ひとつの糧、
ひとつの望み、共にわかち、
ひとりの神のみ民となる。
- 憎みあそばされ、われらを裂き、
人はあざけりののしるとも、
神はわれらの叫びをきき、
なみだにかえて歌をたまわん。
- 世にある民も去りし民も
共にまじわり、神をあおぎ、
永遠の勝利を待ちのぞみて、
イエスの来ますをせつに祈る。

説教 「イエスさまの体なる教会」

賛美 520 「真実に清く生きたい」

I would be true
詞: Howard A. Walter, 1883—1918

PEEK
曲: Joseph Y. Peek, 1843—1911



- 真実に 清く生きたい、
誠実な 友のために。
恐れず 強くありたい、
なすべきわざのために。
なすべきわざのために。
- まことの 友となりたい、
友なき 人の友と、
与えて 報い求めぬ
まことの愛の人と。
まことの愛の人と。

- 謙虚に 進みゆきたい、
弱さを 自覚しつつ。
ゆく手は なお遠くても
心を高くあげよう。
心を高くあげよう。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン



後奏 「我らみな、一つなる神を信ず」
(J.S.バッハ)

司式 玉理 照子
説教 向井 希夫牧師
奏楽 福原 之織